

## 社員の皆様へのメッセージ

株式会社イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2010.12  
208

## インドネシア・インド5泊8日(機中2泊)

インドネシアではジャカルタで、アイシンインドネシア社(クラッチハブ etc.)とトヨタ・コーポ(シャシー)社とMTM(地元企業)社(熱間鍛造・プレス・切削・組付)その3社を見学させていただきました。

そこで驚いた事は、3社ともものすごくきれいで5S(整理・整頓・清潔・清掃・しつけ)が行き届いており素晴らしかったです。また仕事も非常に丁寧でいい仕事をされるようです。

イナテックと比べ物にならないくらい「粉の飛散なし」「油漏れなし」「エアブロー

なし」でした。まさしくこんな事ではインドネシアに負けてしまおうと危機感を覚えませんでした。

「工程内不良率は・・・？」と質問しましたところ、熱鍛では0.5%・マシニングでは0.3%です。と非常に恥ずかしそうな顔で答えてくれたのが印象的でした。

もちろん『TQM(全社的品質管理)』『TPS(トヨタ生産方式)』『TPM(全社的設備保全)』等の活動を実施してみえて『見える化』はイナテックがお膝元にも及ばないくらい深化しております。格段に管理レベルはイナテックよりも高いと感じました。

得意先様不良はもちろん0 PPMです。日本の1/10の月給の人たちが日本のイナテックのレベルよりも高い位置にあるという事は日本企業が今まで、まだ生き残れるさ・・・と高をくくっていた所があったのではないかと思っています。

イナテックもまだ遅くはないと思います。2Sを徹底して工程内不良がゼロを目指し、TPM(全社的生産保全)を活用実施し、

効率的な物づくりをすればまた頑張れると思います。が、何せ1/10の給料の人たちと競争している事実を直視し、発想を柔軟にしスピードをあげ実行あるのみです。

## インドについて

インドの国土面積は日本の約9倍で、人口は11億7000万人です。2026年には中国を抜いて世界1位になる計算だそうです。

インドの自動車市場のイメージですが、日本が600台/1000人の自動車所有に対して、インドは16台/1000人です。ちなみに中国は50台/1000人。インドネシアは90台/1000人です。さすが米国は750台/1000人で世界1位です。

だからインドは限りなく可能性を秘めた国なわけです。インド・中国は自動車市場としては『創生期(これから増えつつある)』でインドネシア・タイはモータリゼーションに突入し真つ只中にいるのです。

そしてインドは年収で20万円/台、40万円/台位の自動車を買える管理職が生まれ

てきたということですが。今から5年先にはインドもモーターゼーションに突入するわけです。(賃金が毎年10%以上上昇しているわけですから可能なわけです)

このような新興国に日本としてどのようにお付き合いしていくかということは浅知恵では済まされないものです。

反対に安価50万円/台前後の自動車はインドやインドネシアから輸入せざるを得ない時が近将来来ると思います。

その証拠に我々の身の回りの服や家電など中国製ばかりではありませんか。日本のお家芸だった自動車も新興国から買わざるを得ない時代に入っていきます。

## インドの風景

ヒンズー教が80%だそうでそのヒンズー教の人たちはお寺まわりが大好きでしょっちゅうお寺に行くそうです。「お願い事」「お礼参り」等々、だからいつも人がいっぱいいます。

遠慮していたら生きていけない。どこでも我先にです。

雨が降ったら雨宿り、雨が上がるまで橋の下で軒先で・・・

仕事がなくとも生きる力を持っている。仕事がなくちゃ残飯も食べるし、物乞いもする。

家がなくとも空き地に青色シート張って・・・トイレなくても野グソ、おしっこは路肩で当たり前。

川の近くに青色テント(バラック・スラム)するわけは、川は水洗トイレの役目であり、風呂、洗濯場、食器食べ物の洗い場でありゴミ捨て場。

だから何でもどこでも生きていける、生きている。

だから向上心がある。

だから目が輝いている。

だから活気がある。力がある。

靴がなければ素足でいい。仕事があれば腹がすかないように寝てりゃいい。

物乞いして1円でももらえれば大もうけ  
ゴミは捨て放題。それは残り物を食べて生きている人がいるからだ。それ(ゴミ)を拾

ってまた捨てる。それを犬も食う、牛も食う、猫も鳥もみんなが生きている。

だから街中にゴミが、残飯が捨ててある。いや捨てるのだ。

車の割り込み当たり前。理由は早く帰りたいから。右側通行(反対通行)当たり前・・・

信号無視当たり前

定員オーバー当たり前

一家に一台のオートバイしか買えない。

(もちろん自転車しか買えない家も多い)何世早いもん勝ち。

だけどのんびりしている。間が抜けている。人間はクソまじめのようです。言われた事はきちんとやる。創意工夫はあんまりない。

だから発展するスピードが遅いのかもかもしれない。

だけどその割に発展している。いつまでも街角で何を話しているのだろう。

女性の太った人が大半？なぜだろう。どうも結婚すると安心して太ってしまうようです。

最近の若い子は痩せ志向。子供が沢山いるのはやる事がないからだそうだ。

テレビもない。電気もない人たちがほとんどだ。娯楽と言えば映画だそうだ。

しかし携帯は皆持っている。どんな貧乏でも。(極貧は別)

生きていく競争に負けたらどうなるの。。。弱いものは生き残れない。だから活気がある。みんな一所懸命生きている。

ルールがあってもない世界。

何でもありの世界。

それでいてやっていけるのはしっかりとした宗教観なのだろう・・・

それが最低のルールなのだ・・・

ヒンズー教がありイスラム教がある。だからやっていけるのではないのか・・・。

こんな街・風景を見て感じたことです。少しでも“インド”という国がイメージしていただければ幸いです。

間違はなくこの国と何らかの形で同じ地球上で共に過ごす、共に競争する。共生する時代が来るはずですよ。